

平成30年度 学生海外PBLプログラム 概要

部局名 人文社会科学部

区 分	内 容
事業名	「学生間国際交流の活性化」を題材とした国際交流PBLプログラム
指導教員	① 人文社会科学部 李 永俊
学生の所属	人文社会科学部 社会経営課程 4年生 2名 人文社会科学部 社会経営課程 3年生 5名
渡航先 (渡航期間)	韓国 (平成30年9月9日～平成30年9月14日)
実施スケジュール	平成30年8月1～10日 事前調査 (質問紙調査・インタビュー調査) // 9月9日 渡航 // 9月10～12日 慶北大学校訪問 (インタビュー調査) // 9月11日 「HIROSAKI留学フェア」開催 // 9月13日 慶北大学校訪問 (調査結果報告) // 9月14日 帰国 // 10月1～20日 調査結果まとめ調査報告書作成等 // 12月21日 青森県企画課主催「学生発未来を変える挑戦プロジェクト」で成果発表
プログラムの概要	<p>1. 目的： 本事業の目的は国際体験を通じた国際理解と国境を越えた幅広い人的ネットワークを持つ地域人材を育成することにある。海外の学生たちが国境を越えて学びあっている中で、本学の学生はその流れに乗り遅れているのが現状である。学生間交流を通してグローバルマインドを涵養することと両地域の活性化にも貢献できることを目指す。</p> <p>2. 事業概要： 具体的な課題としては次のようになる。 ①本学学生の留学に関する意識調査を実施 ②韓国の大学生の留学と国際交流に関する現地調査 ③学生目線での「HIROSAKI留学フェア」を開催 ④事前調査と現地調査結果に基づいた、「学生間国際交流の活性化策」を提案する。</p> <p>3. 設定した課題： ①学生間国際交流を活性化する実践可能な支援策を模索すること。 ②グローバルマインドを持つ地域人材を育てるための具体的な教育プログラムを提案すること。 ③留学生から選ばれる学園都市HIROSAKIであるための具体的な戦略を模索すること。</p> <p>4. 期待される成果等： 本事業では以下の3点の成果が期待される。 ①学んだ経済学の基礎知識をPBL学習を通して実践応用する能力を養うこと。 ②異文化コミュニケーションや共同セミナーを行うことで、自己表現力や実践的英語力を学ぶこと。 ③弘前市の人口減少に対して、交流人口の増加や留学生の誘致など直接的な地域経済への効果。</p>

5. 当事業が弘前市や弘前市関連地域にあたる効果・成果等：

弘前市では人口減少問題が最重要課題となっている。本事業では、学園都市弘前の強みを活かし、大学生の国際交流を通して人口減少問題の解決策を検討する。地域の若者が互いに協力し、それぞれの地域の魅力を再発見・発信することで地域活性化に貢献する。そして青森県の数少ない国際定期便である日韓路線の活性化にも寄与する。

プログラムの様子



【写真1：異文化体験（切符購入）】



【写真2：慶北大学訪問】



【写真3：留学フェア】



【写真4：英語でのインタビュー調査】



【写真5：まちづくり視察】



【写真6：成果報告会】

今後の展望

本プログラムを通して、異文化コミュニケーションはもちろん実践的英語力、自己表現力を十分に養うことが出来たと思う。また、弘前市と弘前大学を相手国の学生に説明するために、地域に対する理解を深める良い機会になった。そして、地域課題の解決策を模索する過程で、基礎科目と専門科目で学んだ知識を実践で応用する能力も学べたと思う。経済学の基礎的知識をPBL学習を通して可視化できるかを本事業の受講者の達成度の評価基準としていたが、今回の事業では100%達成できたと評価できる。

そして、今回の韓国現地での調査を通して、日本への留学についての関心が薄いこと、そして青森県や弘前大学がほとんど知られていないことがよく分かった。今回の調査結果を踏まえて、継続的な留学フェア開催や学生間交流の場を増やすなどの努力が求められていることが分かった。今後も継続してこのような事業に取り組んでいきたい。